

2016年3月期 決算説明会



2016年 5月23日

ユニチカ株式会社

1. 2016年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

中期経営計画関連資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

1. 2016年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

中期経営計画関連資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

業績の概要

産業繊維事業の構造改革や事業ポートフォリオ改革に伴う株式譲渡・事業譲渡などが影響し、全体では減収。

原燃料価格の好転や産業繊維事業を中心とした事業ポートフォリオ改革などが奏功し、増益。

外貨建て資産の為替差損を計上。前期は為替差益を計上。

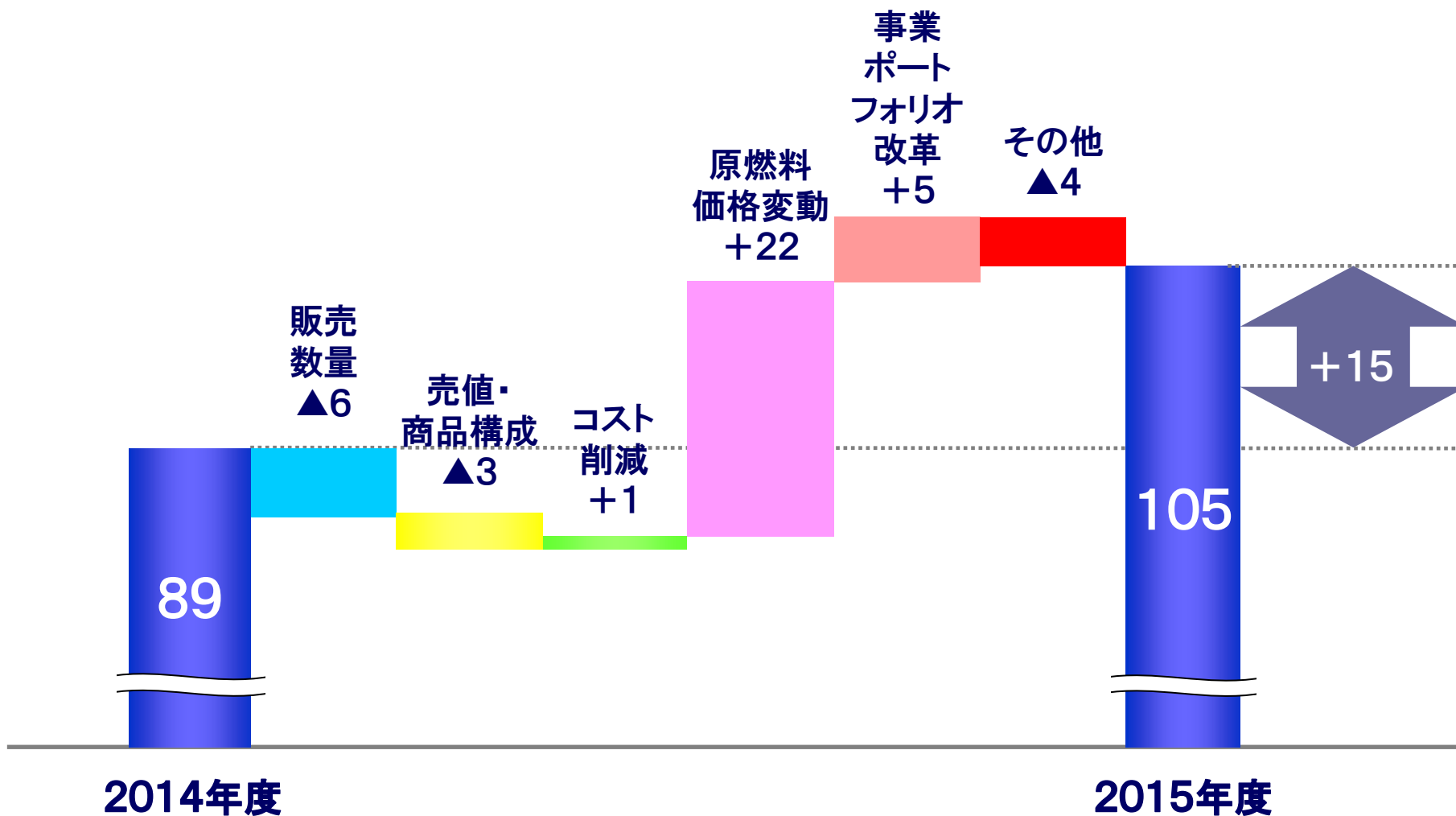
事業構造改善費用として、特別損失を計上。前期は、事業ポートフォリオ改革の一環として、多額の事業構造改善費用を計上。

連結合計 (金額単位:億円)	2014年度 実績	2015年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,591	1,465	▲127	▲8%
営業利益	89	105	+15	+17%
営業利益率	5.6%	7.1%	—	+1.5%
経常利益	77	68	▲9	▲11%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲270	69	+340	—

セグメント別 (金額単位:億円)	2014年度 実績	2015年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,591	1,465	▲127	▲8.0%
高分子事業	556	563	+7	+1%
機能材事業	124	119	▲5	▲4%
繊維事業	751	654	▲97	▲13%
その他	159	128	▲31	▲20%
営業利益	89	105	+15	+17.2%
高分子事業	64	80	+16	+25%
機能材事業	14	14	+0	+3%
繊維事業	11	16	+5	+40%
その他	▲0	▲6	▲6	—

営業利益変動要因分析

(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2015年3月末	2016年3月末	増減
資産合計	2,359	2,200	▲159
流動資産	1,128	1,096	▲32
固定資産	1,231	1,104	▲127
負債合計	2,043	1,820	▲223
純資産合計	316	379	+63
株主資本	292	342	+50
その他の包括利益累計額	▲8	4	+13
非支配株主持分	32	33	+1
有利子負債	1,339	1,263	▲76
自己資本比率	12.0%	15.7%	+3.7%

1. 2016年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

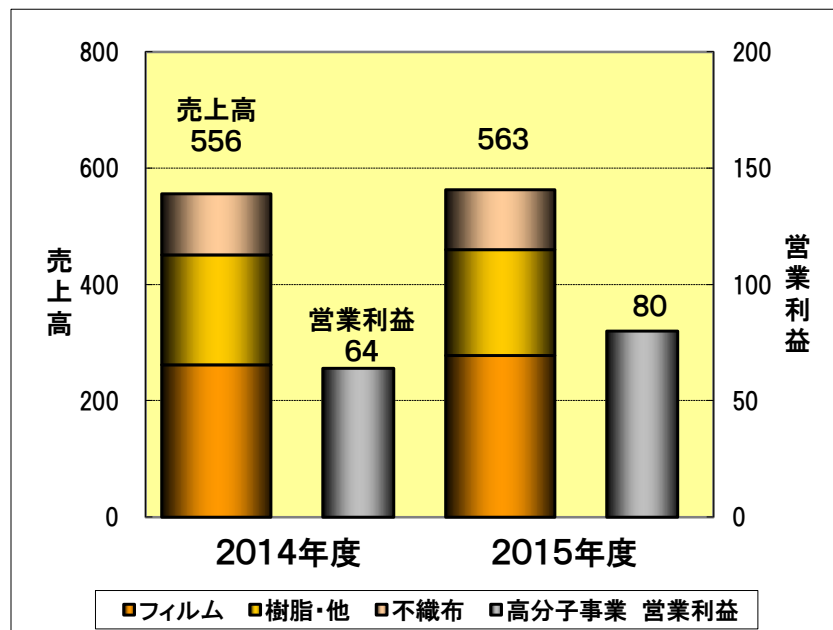
- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

中期経営計画関連資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

包装フィルムの好調により増収、原油安などの影響を受け増益

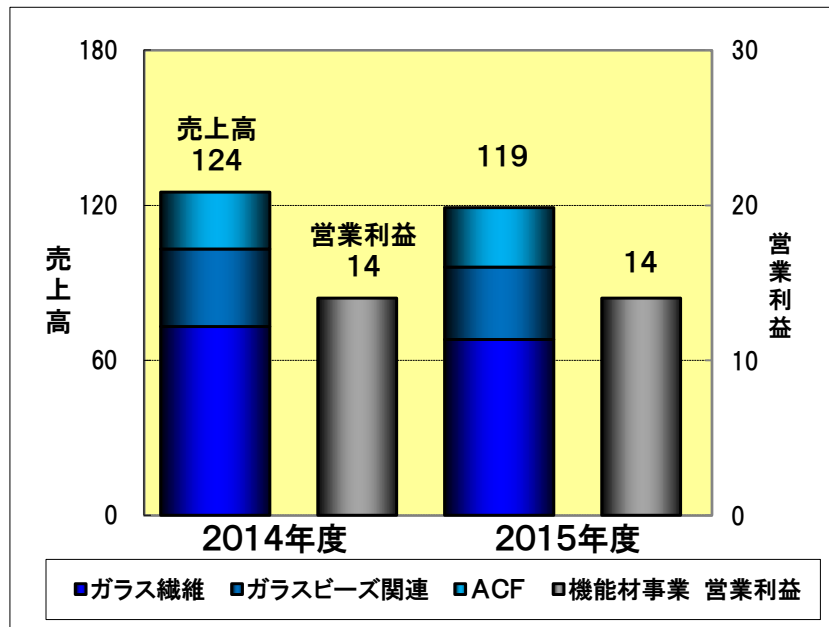
(金額単位:億円)	2014年度	2015年度	増減
高分子事業 売上高	556	563	+7
フィルム	262	278	+16
樹脂・他	189	182	▲7
不織布	105	103	▲2
高分子事業 営業利益	64	80	+16



□フィルム [増収・増益]	◆ 包装分野 国内市況の回復などの影響を受け、好調に推移。 新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」は順調。 ◆ 工業分野 耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」や、「ユニピール」などの高付加価値品の販売が拡大した。
□樹脂・他 [減収・増益]	◆ ナイロン樹脂 自動車産業の低迷や中国の景気減速などの影響を受け、売上が減少。 ◆ 「エリーテル」「ユニレート」「アローベース」などの機能性樹脂は、電気・電子機器用途等で堅調。 ◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、情報端末機器用途で好調に推移。
□不織布 [減収・増益]	◆ ポリエステルспанボンド 生活資材用途で堅調に推移したが、農業用途や建築用途を中心に売上が減少。 ◆ コットンспанレース インバウンド需要の拡大を背景に、スキンケア用品などの生活資材用途で売上が拡大。

機能材事業は、ガラス繊維(ICクロス)の販売が低調も増益を確保

(金額単位:億円)	2014年度	2015年度	増減
機能材事業 売上高	124	119	▲5
ガラス繊維	73	68	▲4
ガラスビーズ関連	30	28	▲1
ACF	22	23	+1
機能材事業 営業利益	14	14	+0

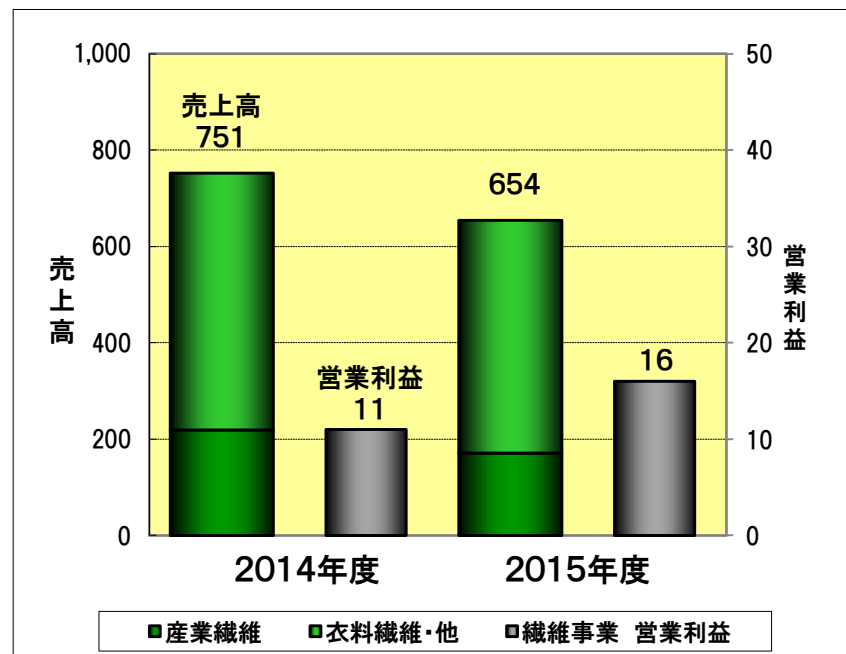


□機能材 〔減収・増益〕

- ◆ ガラス繊維・産業資材分野
建築用途や環境関連用途では堅調も、土木用途で低調に推移。
- ◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、情報端末機器用途での需要が伸びず、低調に推移。
- ◆ ガラスビーズ
ロードマーキング用途で売上が回復し、工業用途や反射材用途では売上が減少。
- ◆ 活性炭繊維
工業用途で期後半から需要が減少したが、主力の浄水器用途で期後半から需要が回復。

産業繊維は、低採算品の縮小や高付加価値品への転換により収益改善

(金額単位:億円)	2014年度	2015年度	増減
繊維事業 売上高	751	654	▲97
産業繊維	219	171	▲47
衣料繊維・他	533	483	▲50
繊維事業 営業利益	11	16	+5



□ 繊維 〔減収・増益〕

◆ 産業繊維

ポリエステル高強力糸は、主力の土木用途で低調に推移したが、複合繊維など高付加価値品の販売が拡大し、収益は増加。

ポリエステル短繊維は、事業構造改革に伴う低採算製品の縮小が完了し、高付加価値品への転換が進んだため、収益は大きく改善。

ビニロン繊維は一部銘柄で備蓄対応中。

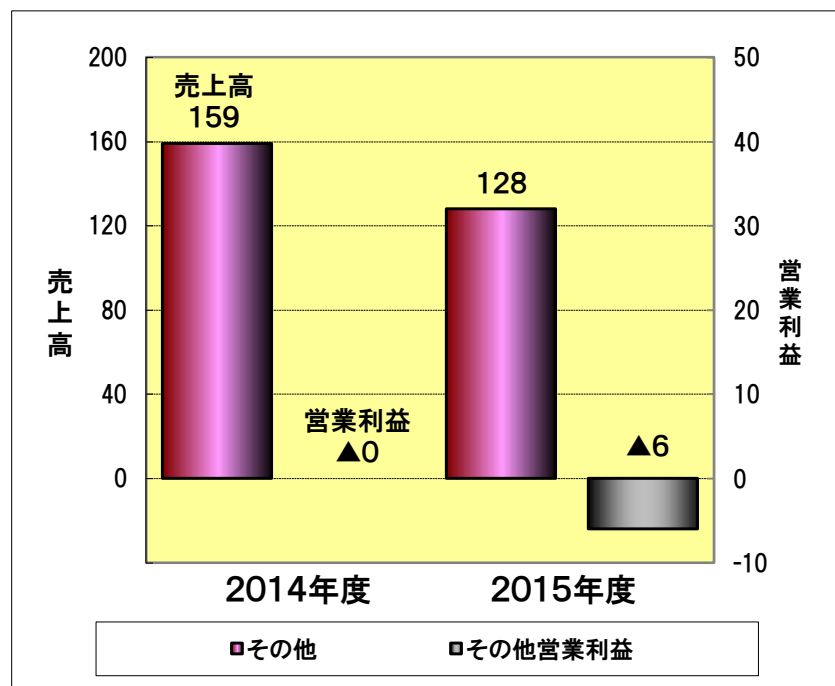
◆ 衣料繊維

ユニフォーム分野やスポーツ分野は、販売数量の減少や海外調達コストの増加に伴い採算が悪化。

レディス分野は、二次製品の拡販に努め前年並みの収益を確保。

事業ポートフォリオ改革に伴う譲渡などの実行により減収減益

(金額単位:億円)	2014年度	2015年度	増減
その他 売上高	159	128	▲31
その他 営業利益	▲0	▲6	▲6



□その他
〔減収・減益〕

◆その他事業

事業ポートフォリオ改革に伴う事業譲渡、株式譲渡などの実行により、事業規模が縮小。

◆ユニチカ設備技術㈱

耐火スクリーンの不具合懸念に伴う是正工事は、9割以上進捗。

1. 2016年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

中期経営計画関連資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

成長戦略施策に軸足を移し、業績の拡大を目指す

(金額単位:億円)	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比 増減
売上高	1,465	1,375	▲90
営業利益	105	117	+12
営業利益率	7.1%	8.5%	+1.4%
経常利益	68	90	+22
親会社株主に帰属する 当期純利益	69	70	+1

前提	2017年3月期
原油(\$/バレル)	50
為替(円/\$)	120

2017年3月期予想(億円)	
設備投資	68
減価償却費	47

◆ 当社グループは、中期経営計画に基づく事業ポートフォリオ改革が2015年度で概ね完了したため、今後は成長戦略施策に軸足を移し、業績の拡大を目指す。

- ➡ 高分子事業を中心とした設備投資を更に推し進め、成長市場であるアジア地域での製品供給能力の増強をはかる。
- ➡ 高付加価値品の開発を加速することで、国内外での事業の拡大を目指す。

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な利益変動要因と見通し
	2016年 3月期実績	2017年 3月期予想	前期比 増減	2016年 3月期実績	2017年 3月期予想	前期比 増減	
高分子事業	563	570	+7	80	89	+9	<p>新バリアフィルム「エンブレムHG」や耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の販売拡大。</p> <p>ナイロンフィルム新機台を活用した包装フィルムにおける収益拡大。</p> <p>「アローベース」「ゼコット」などの樹脂成長戦略の推進。</p> <p>不織布における海外展開の強化。</p>
機能材事業	119	131	+12	14	15	+1	<p>ガラス繊維(ICクロス)における高付加価値品の情報端末機器用途などへの拡販。</p> <p>活性炭繊維における浄水器用途、工業用途や一般脱臭用途での海外展開の加速。</p>
繊維事業	654	636	▲18	16	20	+4	<p>複合繊維など高付加価値品の拡販による産業繊維の収益拡大。</p> <p>衣料繊維におけるグローバル商流の強化と新商品の開発と拡販。</p>
その他	128	38	▲90	▲6	▲7	▲1	耐火スクリーン是正対応の完了。
合計	1,465	1,375	▲90	105	117	+12	

1. 2016年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

中期経営計画関連資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

成長戦略

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア新機台製品の国内展開 及び東南アジア市場での拡大		2015年4月からの本格稼働に伴う 効果で販売量は前年比120%。	○～ △
	新バリアナイロンフィルムの展開		ボイル・レトルト食品向けバリアフィ ルム「エンブレムHG」を本格販売、 採用拡大中。 生産機台改造を2016年4月に完了 し、更なる拡販を目指す。	○
	耐熱ポリアミドフィルムの拡大		フィルム加工技術を駆使して開発し た耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミ ド」。 販売量は前年比110%。生産能力 増強を2015年度に実施。	○
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム 「ユニピール」などの高付加価値ア イテムを拡販中。 販売量は前年比330%。	○

成長戦略

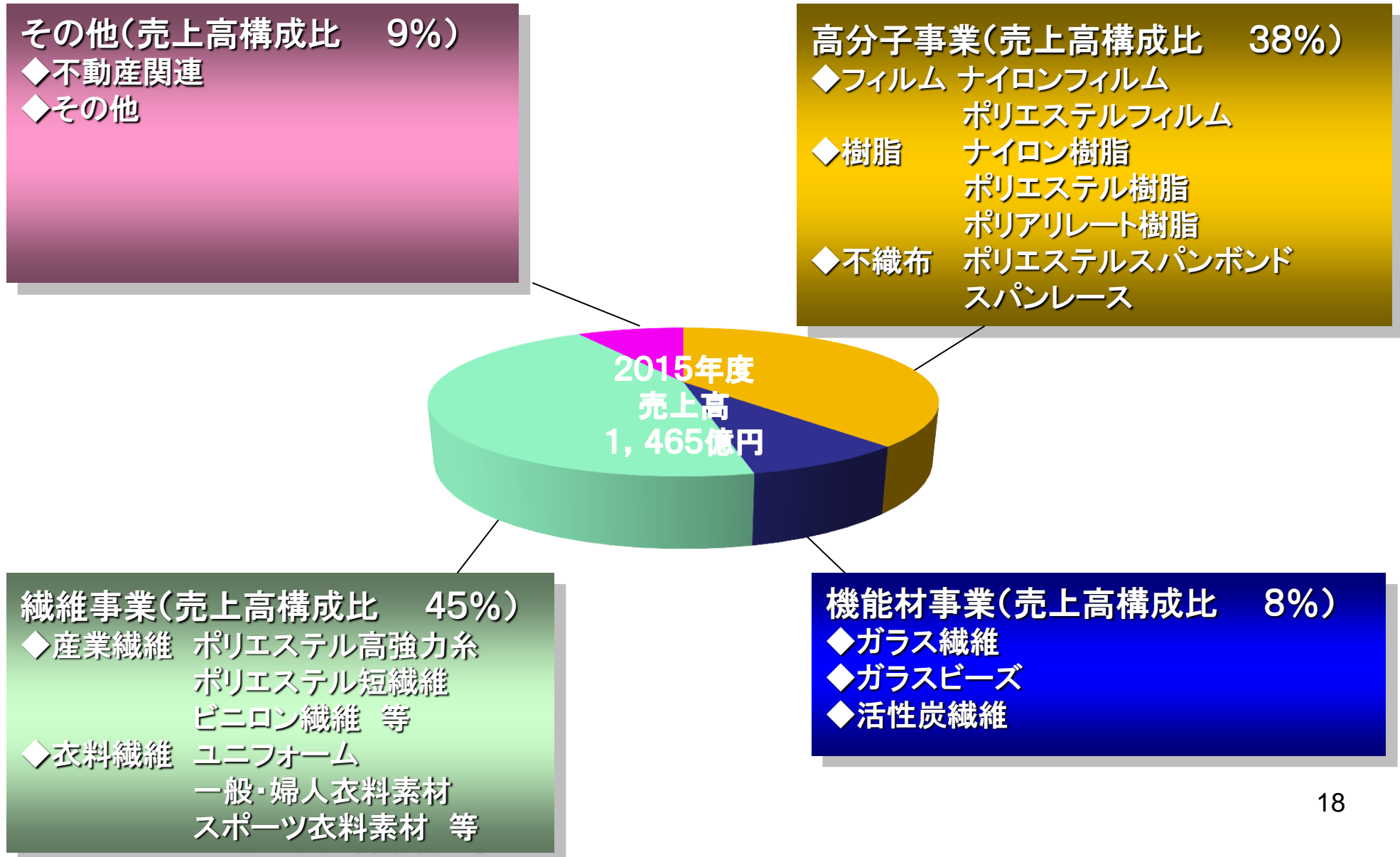
	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		販売量は前年比150%。 中国など海外展開強化中。	○
	「ゼコット」の拡販		電気・電子機器分野などで採用。 自動車部品分野を中心に各種用途 展開強化中。	△
	高機能性PETの拡販		差別化アイテムを強化・拡大中。 販売量は前年比130%。	○
不織布	タスコの新機台増設に向けてのアジアグローバルシェア拡大		マーケティング強化。 約40億円の設備投資を実行中。 2017年4月稼働予定。	(○)

事業ポートフォリオ改革結果一覧

関連会社			ユニチカ本体
株式譲渡(7社)	清算(9社)	本体吸収(3社)	事業譲渡(3事業)
ダイアボンド工業	エンブレムチャイナ	ユニチカロジスティクス	メディカル事業
ユニチカパークシャー	ユニチカプラスチックタイ	ユニチカリアルティ	生活健康事業
ユニチカエステート	ユニチカエヌピークロス	ユニモア	金属繊維事業
ユニチカ赤穂開発	ユニチカファイバー		
ユニチカ環境技術センター	アイテックス	縮小(1社)	縮小(1事業)
ユニチカ情報システム	ユニチカサカイ	ユニチカスピニング(佐賀閉鎖)	ポリエステル短繊維事業
ユニチカ京都ファミリーセンター	ユニチカ成羽		
	ダイセン興産	一部事業譲渡(1社)	生産停止(1事業)
	ユニチカゴルフイング垂井	ユニチカ設備技術(ユニレリーフ)	ビニロン事業

不動産売却	
豊橋事業所	ユニチカリアルティ(貝塚)
貝塚事業所	ユニチカリアルティ(大和高田)
宮川事業所(一部)	ユニチカサカイ
	アイテックス

約200億円の連結売上規模に相当する事業・関連会社を整理。また、不動産売却等も実行中。施策実行に伴う損失は累計(2014~15年度)で約350億円。



ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。